

# 花まつり

【4月号】



光明寺(大瀬戸)の花まつりの様子

## 【花まつり —お釈迦さまの誕生日—】

仏教徒にとって、4月といえば「花まつり」です。これは、お釈迦さまの誕生日であります4月8日をご縁として行われる仏事で、誕生仏（生まれたばかりのお釈迦さま）を厨子（ずし）に祀って、レンゲ草などの沢山の花々でその周りを飾り、甘茶をかけてお釈迦さまの誕生をお祝いします。

お経によると、お釈迦さまは生まれてすぐ七歩あるいて、右手は天を、左手は地を指して「天上天下唯我独尊(てんじょうてんげゆいがどくそん)(天にも地にもただ我れ独り尊し)」と叫んだと説かれています。何とも不思議な話ですが、果たしてそこにはどのような意味が込められているのでしょうか。



## 【かけがえのない私】

生まれたばかりの赤ちゃんが発する「オギャー」という人間としての第一声に、「天上天下唯我独尊」という叫びが込められている。お釈迦様はそのように表現されました。それは、人としてこの世に生まれてきたということは、「私たち一人ひとりが、阿弥陀さまから深い願いをかけられた、かけがえのない尊い存在」だからなのでしょう。それがいつの間にか、目先のことばかりに心を奪われて、人生を空しく過ごしてしまう。そのような私たちに、もう一度、この世に人として生まれてきた意義を教えてください、それが「花まつり」なのです。

どうかこの「花まつり」をご縁として、私が私として生まれてきた意義や、大切な人と出会えたその喜びを、家族やお友達と一緒に語り合ってみてはいかがでしょうか。

## 今月の門徒さん

光明寺では、23年ほど前から、園児や学童、地域の人たちが参加しやすいよう、4月29日(休日)に花まつりを行っています。親子のゾウ、花車をみんなで引いて行道(ぎょうどう)し、多くの方々が甘茶をかけてお祝いします。

また、子どもたちが風船に手紙を付けて空へ飛ばし、数日後に返事が来ると、とてもうれしい気持ちになります。最後に、本堂でお齋をいただき懇親を深める楽しい1日となっています。



たにがわ てつぞう  
谷川 徹三さん

(第2組・光明寺)





ぶつ か

# 仏華について



昔より「信は莊嚴しょうごんより生ず」と言われ、四季折々の草花をきちんとお内仏にお供えすることが、真宗門徒もんどうの大切な習わしとなっています。

お花をいつ挿んでもいいように萎しおれないようにすることは、案外難しいことでもあります。例えば暑い季節は、水をこまめに替えたり、暑さに強い草花（カイツカイブキ、シバ、マツ、マキ、菊など）を生けるなどして、できるだけ仏華を長持ちさせる工夫が必要となります。



お内仏の仏華

あるアンケート調査によると、人が花を見て感じることは、「やすらぎ」、「なぐさめ」、「自然」、そして「やさしさ」だそうです。ゆえに、仏前にお供えするお花は、仏さまの慈悲じひの象徴であります。

なお、真宗大谷派では、トゲのある花（バラ）、ツルに咲く花（アサガオ）、そして臭気きんかのある花は禁花となっておりますので、基本的には仏さまのお花には使用しません。



平常時の仏華(本堂)



御正忌報恩講の仏華